

3 . 流域の社会状況

3 - 1 土地利用

番匠川の流域面積は 464km² であり、佐伯市の 36%、弥生町の 18%、直川村の 17%、本匠村の 27% で構成されている。

流域内の土地利用は、山地等が約 94%、水田及び果樹園等の農地が約 4 %、宅地等市街地が約 2 % となっている。

表 3 - 1 土地利用別面積

項 目	番 匠 川 流 域	
	面 積 (k m ²)	割 合 (%)
山 地 等	439.7	94
農 地	17.0	4
宅地等市街地	7.3	2
総 面 積	464.0	100

出典：平成 7 年度 河川現況調査

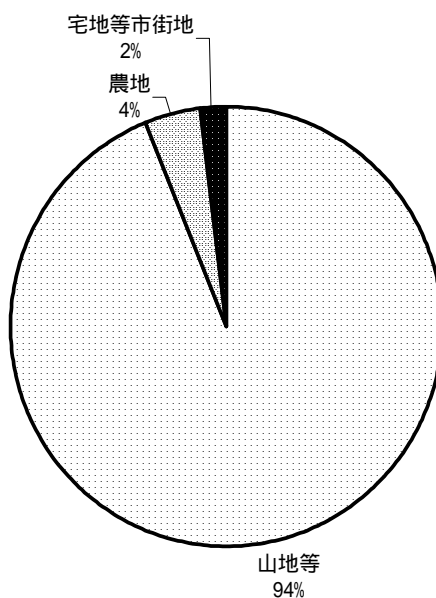


図 3 - 1 流域内の土地利用

3 - 2 人 口

番匠川流域内の人口は約 57,000 人（平成 2 年河川現況調査）で、人口密度は 122 人/km² である。経年的な人口の推移を見ると、ほぼ横ばい傾向にある。

また、想定氾濫区域内の人口は約 40,000 人（平成 2 年河川現況調査）で、流域内人口の約 7 割が台風等により浸水の危険がある区域に住居している。

表 3 - 2 流 域 内 人 口 の 推 移

年次 区分	人 口 (人)								人 口 密 度 (人/km ²)
	S.40	S.45	S.50	S.55	S.60	H.2	H.7	H.12	
流域内	-	-	56,420	57,574	59,422	57,234	-	-	121
佐伯市	51,369	50,698	52,863	54,306	54,708	52,323	51,376	50,120	254
弥生町	8,194	7,024	7,047	7,270	7,307	7,165	7,041	7,079	85
直川村	5,080	3,775	3,671	3,606	3,584	3,424	3,081	2,847	35
本匠村	4,676	3,201	2,912	2,739	2,566	2,376	2,220	2,049	17

注1) 流域内は平成2年、市町村は平成12年より人口密度を算定

出典：流域内「河川現況調査」
市町村「国勢調査」

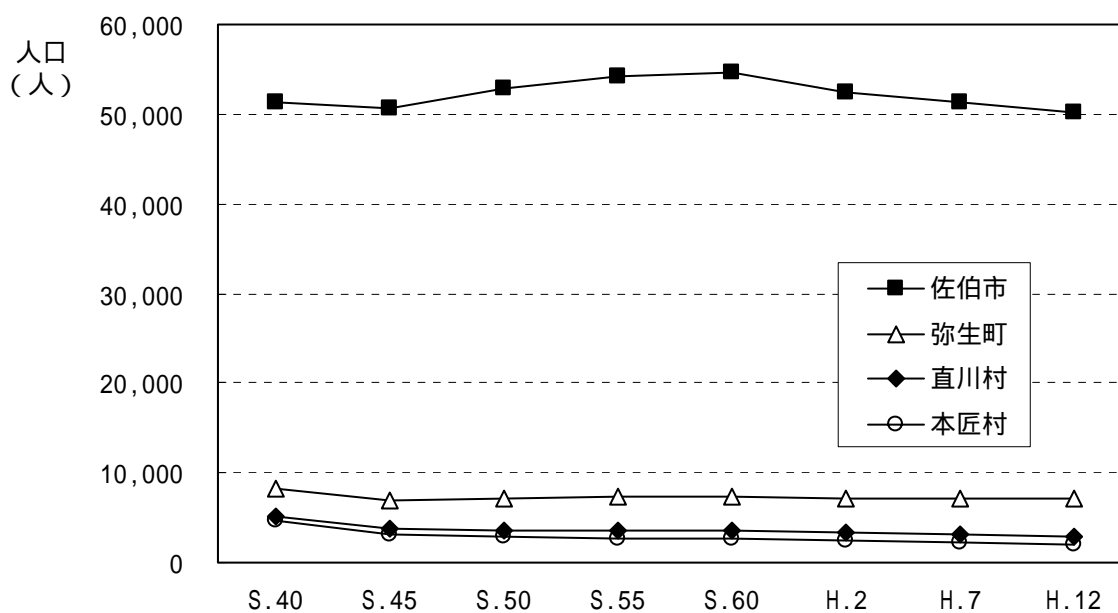


図 3 - 2 市 町 村 の 人 口 推 移

3 - 3 産業経済

番匠川の流域内の産業は、上・中流では林業を中心に果樹・椎茸栽培等、下流では新建材・造船・鉄工・水産加工等が行われている。

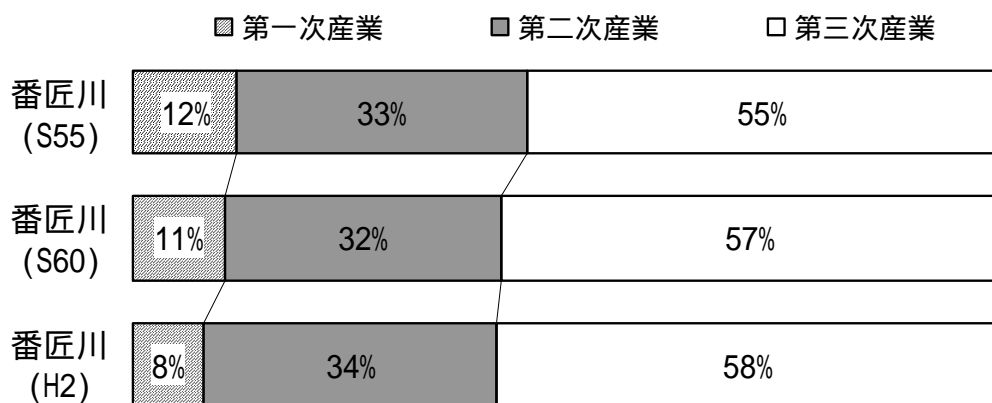
林業では、内陸部に豊富な森林資源を有し、佐伯市内に木材団地が存在する。農業では、温暖な気候を利用して柑橘類や施設野菜、早期米等が栽培されており、花きは市場でも高く評価されている。水産業では、豊後水道の恵まれた漁場のもとに漁船漁業や海面養殖業が盛んに営まれており、それらを利用した水産加工品が全国的に有名である。工業では、佐伯市を中心とした造船等の基幹産業が行われている。

このような流域内産業形態を反映して、産業別就業者数の構成比の推移は第一次産業の占める割合は若干低くなっており、第二次、第三次産業の占める割合はほぼ横ばいになっている。

流域内の総資産額は平成2年時点で約5,565億円で、その約半分は家屋資産が占めており、5年間の推移を見ると約1.4倍に増加している。

表3 - 3 流域内の就業者の産業構成の推移 (単位：人)

項目	昭和55年度		昭和60年度		平成2年度	
	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)	就業者数	割合(%)
第一次産業	3,242	12	2,906	11	2,165	8
第二次産業	8,996	33	8,802	32	8,835	34
第三次産業	14,686	55	15,762	57	15,220	58
合計	26,924	100	27,470	100	26,220	100

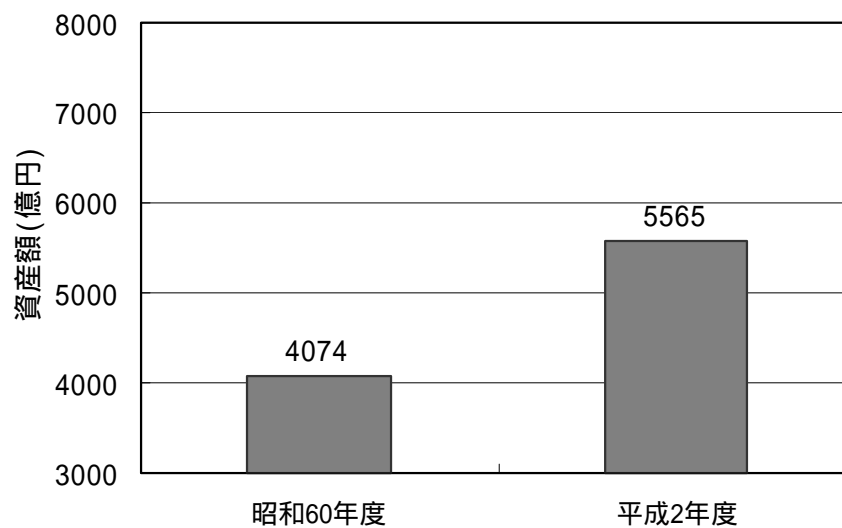


出典：河川現況調査

図3 - 3 流域内の産業別就業者構成の推移

表3 - 4 流域内の各資産額の推移 (単位：百万円)

年度	家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
S 6 0	207,710	71,479	118,916	9,322	407,427
H 2	296,376	89,302	165,664	5,136	556,478



出典：河川現況調査

図3 - 4 流域内の総資産額の推移



造船業（佐伯市）
出典：前略、佐伯市です。



鮎養殖業（弥生町）
出典：2001 弥生町勢要覧



木工産業（直川村）
出典：村制 50 周年記念誌直川村村勢要覧



因尾茶栽培（本匠村）
出典：2001 本匠村勢要覧

3 - 4 交通

番匠川流域には、北九州市と鹿児島市を結ぶJR日豊本線が縦断している。日豊本線は大分市、佐伯市、延岡市の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。

道路については、北九州市から九州の東側を通る国道10号をはじめ、臼杵市、津久見市へ通じる国道217号、蒲江町^{かまえ}を経て延岡市へ至る国道388号が流域内を通過している。また、東九州自動車道が津久見インターチェンジまで開通しており、現在、津久見から佐伯市までが鋭意整備が進められている。

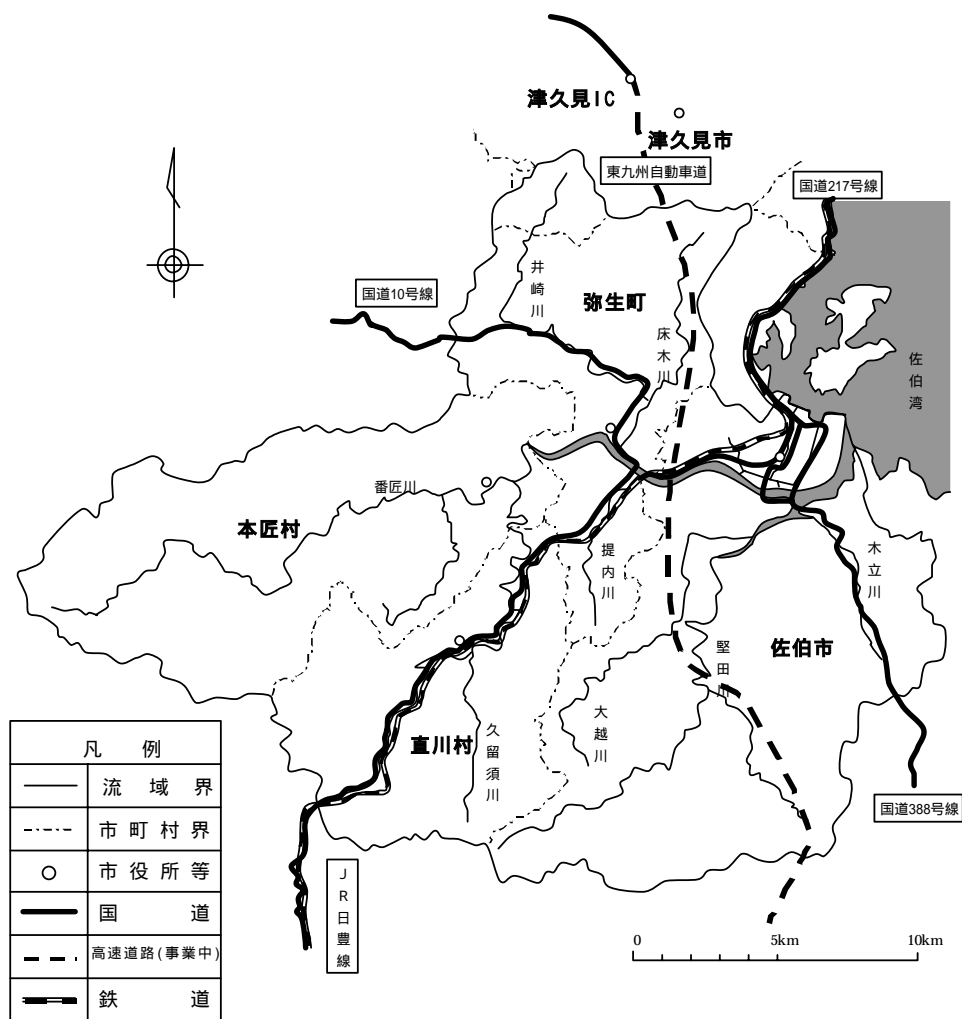


図3 - 5 交通体系図

3 - 5 将来構想

番匠川関連市町村の将来計画を示すと表3 - 5のとおりである。

表3 - 5 県・市町村の番匠川関連計画

No.	自治体名	計画名等	番匠川水系との関連
1	大分県	おおいた新世紀創造計画	・ 番匠川、久留須川等の環境に配慮した河川改修や土砂災害防止対策の推進
2	佐伯市	第4次佐伯市総合計画 (後期計画)	・ 山間部レジャー拠点の整備 (播磨谷の渓流等を市民レクリエーションの場として、自然環境の調和を図りながら、その利用を検討する)
3			・ 中川、中江川の水辺環境整備に努める
4			・ 番匠川河川敷緑地の保全 (水害防止機能の拡充に係わり、番匠川河川敷緑地の保全を図る)
5	弥生町	第3次基本構想・基本計画	・ 治山治水対策の実施
6			・ 河川の対策
7			・ 防災体制の確立
8			・ 防災思想の啓発
9			・ ほたるの里づくりの推進
10			・ 河川の浄化
11			・ 環境教育の実践
12			・ 自然景観の保全
13			・ 内水面漁業の振興
14	本匠村	第3次本匠村総合計画	・ 観光拠点の形成 (番匠川両岸の河川空間を景観保全地帯として、観光拠点の可能性を模索)
15			・ 村内観光、レクリエーションルートの整備 (番匠川そのものを観光資源として、いつでも楽しめる川づくりを推進)
16			・ 「水辺の楽校」の活用 (美しい景観や清流を利用した体験や学習が出来る環境を整備し、都市住民との交流促進に努める)
17	直川村	第3次基本構想・基本計画 直川村総合計画	・ 自然を活かした公園の整備 (親水護岸等地域の特性を活用した公園や憩いの場を要望し整備する)
18			・ 河川改修事業の推進
19			・ 周辺の自然景観との調和・親水性の向上 (河川改修事業において、周辺の自然景観並びに親水性を配慮した構造となるよう要望)